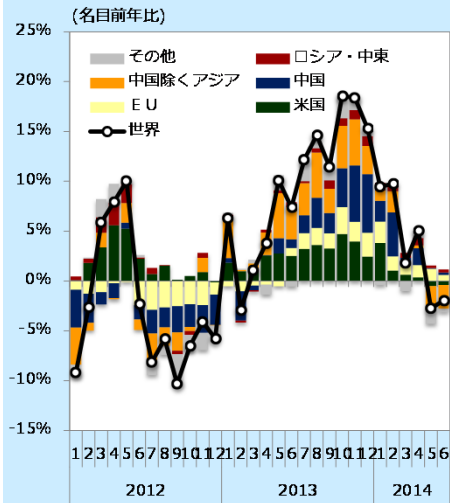


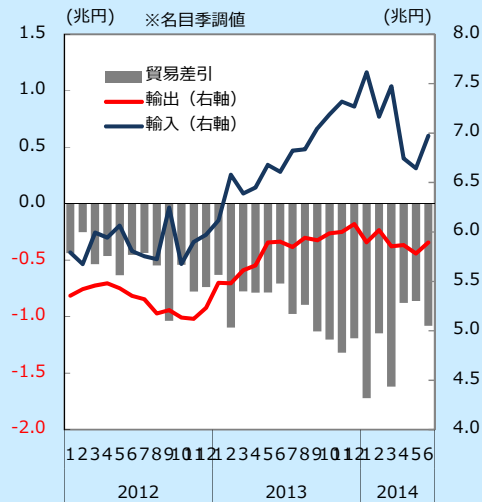
日本：貿易統計（2014年6月）

MRI Daily Economic Points
July 24, 2014

地域別輸出



輸出入と収支

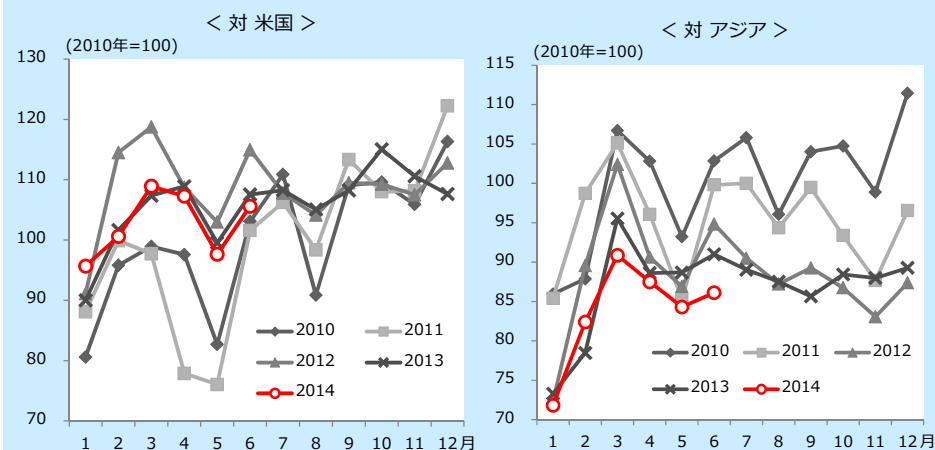


評価ポイント

2014年6月の結果

- 6月の貿易統計は、輸出が前年比▲2.0%と2ヶ月連続で減少した一方、輸入が同+8.4%と増加。貿易収支は、▲8,222億円と6月としては過去最大の赤字となった。季調値では▲1兆808億円と前月(▲8,613億円)から赤字幅が拡大した。
- 輸出の伸びがマイナスとなった要因として、輸出数量が前年を下回って推移しているほか、円安効果の一巡により輸出価格が37ヶ月ぶりにマイナスに転じた影響も大きい。
- 輸出数量を地域別にみると、EU向けが前年比+4.5%と回復基調を維持している一方、米国向けは水準は高いものの同▲1.8%と3ヶ月連続で前年を下回った。米国での自動車販売は好調であるものの、日本からの輸出は、同▲7.7%と減少しており、メキシコ等への生産拠点の移転が影響している可能性もある。アジア向けは同▲5.4%と4ヶ月連続の減少であり、引き続き弱い。中国は、同+1.5%の増加となったものの伸びは鈍化傾向にある。
- 輸入は、輸入価格が前年比+1.1%と前月同様小幅な伸びを示している一方で、輸入数量が同+7.2%と大幅に伸びた。増税の反動減の影響が剥落しつつある可能性がある。
- 日銀の実質輸出入によると、6月の輸出は季調済前月比▲0.5%と2ヶ月連続の減少、輸入は同+3.6%と3ヶ月振りの増加となった。

地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、新興国向けを中心に低調な推移が続いている。
- 輸出の先行きは、世界経済の緩やかな回復を背景に、14年後半にかけて持ち直しの動きをみせるであろう。しかし、先進国、新興国問わず、海外生産比率や現地調達比率の上昇などの構造要因もあり、輸出相手国の回復ほどには日本からの輸出が伸びない可能性がある。
- 貿易収支は、輸入の伸び鈍化から赤字幅の縮小を見込むが、大幅な改善は期待できず、当面は現状程度の貿易赤字の継続を見込む。